ニコラス・マッカラ

2018年12月6日

JAPN320S-01

最終の小論文～サービスについてのまとめ

 サービスというのは一つの文章で簡単に纏めて表現できるものではなく、幾つかの具体的な例を挙げたとしても、サービスの様々な面を纏めて充分に説明されるものでもないと思います。しかしJAPN320S-01という授業を通して様々な経験を得られ、そのことによってサービスというものが実際にはどういうものなのか以前よりもしっかりと分かるようになりました。しかも今学期させてもらっているサービスの一つの種類の最終的な目標もその目標の達成のし方も今の自分にははっきりしていると思います。とういうわけで、この授業のアウトカムに関して、私が実際に体験したサービスから感じたこと、考えたこと、反省したことを伝えたいと思い、今から述べさせていただきます。

 **アウトカム1番**

 「Self and Social Awareness」という一つ目のアウトカムに関しては、まずは自分の背景や社会的な立場などをしっかりと認識しないと、おそらく自分と同じコミュニティーに属している人々の背景や状況などがわかるようにはならないと思います。色々な面において(英語で育った環境や、経済的にかなり安定した生活など)自分が属しているグループから特権を得られているにもかかわらず、ここ数年間の内に自分の周りのコミュニティに恩返しすることを考えずにずっと自分の目的を中心に置き、それを達成しようとしてきました。なぜかと言うと、自分が育った環境では自分の目的を優先するという考えが常識として扱われているからです。ですが、そもそもコミュニケーションに関連する職業に就きたい私にとっては、あるコミュニティーの人々がお互いにコミュニケーションを取れるということはちゃんとした目的であるべきです。要するにコミュニティーがなければ私のような人は誰にも何の役にも立たないわけです。私の経験から言うと、自分が二つの異なるグループ（英語が話せる人・日本語が話せる人）に属することで深い文化的な交流ができるように翻訳も通訳もしたことがありました。今の自分は日本から来た留学生と相当異なる背景を持っているアメリカ人大学生同士と自分と相当異なる背景を持っている小学生に、放課後に日本の事について教えるのはやはり簡単にできるものではありません。そうは言っても、皆と異なるところがあるとばかり考えるよりも、異なるところもあればきっと共通点（日本の事など）もあるように考える方が深い交流に繋がると思います。

 **アウトカム２番**

この授業で一つの「Social Responsibility」に繋がっていることでしっかりと学んだことを述べると、サービスというのは一方的に権力などを持つ人からその様な特権を持っていない人に与える目的ではなく、同じコミュニティーに属している人だからこそ、自分ができることでなるべくお互いに支え合うことです。より具体的な例を挙げると、私が通っているサービスサイトの小学生達はそれぞれが潜在能力を持っています。教師として私は幾つかの重要な責任を持っていて、その中で個人的に最も重要だと思っているのは、既に持っている能力を養いながらそれまで意識していなかった概念や考え方などを紹介して教えることです。短期間においては、私は生徒達に日本に繋がっていることや日本に関係していなくても役に立つ考え、礼儀や概念などを教えることができると思います。それだけではなく、生徒達はCPYの放課後に通っている限り、より生活の中の危ない目に遭う可能性が少なくなっているということを感じました。長期間においては、私は子供達に彼らの周りの地域以外の場所で将来の可能性があるという事をしっかりと分かってほしいです。生徒達と同じ年齢の頃の自分はそのような可能性があるという事が分かりませんでした。もしかしたら、中学校時代か高校時代に日本語の勉強をする機会があって始めていたら、今の自分が目指している方向に必要な能力を早めに活かすことができたはずです。この授業を通して生徒達の視野を広げて多くの可能性があるというのをちゃんと見せる事が出来れば私はそれで満足が行くと思います。

**アウトカム3番**

アメリカは日本ほど学歴社会ではありませんが、二国間に共通の要素があると私は思いました。特に現代のアメリカの社会では就職する上で、新卒で無い人にとってはかなり厳しいです。なので「Social Justice」に関しては、大学生として少なくとも放課後の授業を担当することで学習機会の足りないという環境をある程度補うことができると考えます。
 この授業では言語教育研究に関する幾つかの記事を読みました。その記事によりますと外国語と外国の文化を勉強することで一般の生徒は様々な利益を受けて、その中では成績が全体的に上がるという傾向があることが分かりました。こういう研究結果が出てアメリカの教育制度の足りないところに関連性が分かっているにもかかわらず、全国的に結果に応じて教育制度を充分に改善されていないようです。確かに学校の地区によって授業の多様性や質が異なりますし、ある学校では理想の形で実施されている授業もありますが、一方ではちゃんとした教育施設も学習機会もないという状況もあるわけです。潜在能力を持っている生徒は学習機会の不足のせいでその能力を充分に活かせないという事を考えると実にもったいないです。
 自分のイメージでは優性というのは色々な形で存在し、優性のグループは多くの場合は情報を独占する傾向があると私は個人的に思います。教師の一つの責任は誰にでも背景を問わずに平等に、利益を与える情報を必要としている方にあげることです。その情報はどう使われるのかは結局のところ生徒次第ですが、教師としてもお手本としても生徒達もっと将来に良い方向を導くこともできます。なので、私は１週間に１回だけの少ない機会だとしても私達が教えている授業に参加してくれた子供の将来に、ある程度の良い影響を与えると思います。日本語を学習した効果は、子供達にとって自身の文化に対する理解や異なる文化への理解、又は日本の文化にさらに興味を持ちさらに学習したり、その他の文化についての興味深い概念や文化に興味ができて自分からもっと深く知りたくて調べてみるという形でも良いです。
 **アウトカム４番**
 今学期させてもらったサービスはいくつかの面では深い異文化交流のような機会でした。まずはJAPN320S-01の授業を取っているクラスメートの背景や経験などを考えると明らかにそれぞれありますが、特に私が入っているサービスチームの場合です。私と同じようにシャノンさんはアメリカ人ですが、メキシコ系のアメリカ人なので、私達の家庭教育や文化的な背景や全体的なアメリカ人としての経験は形的にある程度異なると私は思います。そして、私と恋さんの場合は多くの面では異なり、例えば私は生まれも育ちもアメリカですが、恋さんは生まれも育ちも日本です。それによって母国語も家庭教育も考え方等がそれぞれです。そう言う大きな異なるところがあるにもかかわらず、むしろ私達はチームワークが良くて、三人は異なる背景や考え方等を持っているからこそお互いに学び合うことが沢山ありました。それで三人の得意ところに応じてレッスンプランを作って授業をうまく行えるようにもなりました。こういう経験のお陰で私達三人は多文化的なコミュニケーションの能力を相当行かせ、特に近い将来に多文化の環境で働くつもりの私には確実にためになる経験です。
 私達三人の場合と似っているように私達が担当している授業に受けている生徒達は年齢的に、性格的に、経済的な背景の面などでも私達とかなり異なっているようです。それによって生徒達のことがあまり知り合わなかったサービスの前半は控えめに言うと大変でした。まずはあの１０人ぐらいの生徒達に相応しい教え方が知らなかったので、最初の三つの授業の内容は生徒の注目も興味も中々引き付けることができませんでした。しかし、四回目の授業の時に内容の活動の形は前の授業のよりももっとアクティブにした結果、子供達自身が自分から活動に喜んで参加できるようになりました。そこでその授業からの活動に四回目の授業の形に基づいて応用することにしました。色々な原因によって、あの時からの授業は率直に言うとさっき述べた発見のお陰で上手くいくわけではないですが、授業の内容に対する生徒たちの反応が以前より大体よくなってきて益々私達が教えていることも生徒達に受け入れやすくなっているというのが確かです。それによって私達と何人かの生徒達の距離も縮まりながら生徒からの尊敬も得られてお手本として見られるようになりました。
 私達の授業の終了後ある子供達が日本の勉強をつつけそうに見えないですが、つつけそうに見える生徒もいます。それから日本だけではなくて全体的な異文化に対する子供達の受け入れを養うことができて嬉しいです。二十一世紀社会に生きている人々にはそう言う柔軟で寛容な心が大事だからです。
 **結論** この授業の内容を触れたりサービスサイトで実際に色々な背景を持っている人と
接したり、その人々と深く交流したりしたという体験のお陰で、以前に思い込んだサービスの概念もサービスはどれほどの社会への良い影響力を与えるのかという考えも、良い意味で変わってきました。正直なところ、私の教師としての実力はまだまだこれからですが、サービスのような交流の重要な価値があるというのが分かる自分はこれからも教える能力を鍛えていきたいと思います。近い将来に就職活動を始めるつもりですが、もしかすると今学期のサービスのような機会がまたが出てくるとしたら喜んでさせて頂きます。